

鳥の目で「ふりかえる」実習体験

東 宏乃

社会貢献活動支援室



はじめに：鳥の目・虫の目

ものの見方には、いろいろあるが、「鳥の目」「虫の目」という見方がある。空から眺めるように巨視的に対象を見る視点が「鳥の目」で、地面にはいつくばつて対象について詳細に記述しようとする視点が「虫の目」である。ものごとを見るには両方の視点が必要で、その往復運動が新たな発見に役立つというものである。

これまで、中間期研修ワークショップについて、「年次報告書」で毎年報告してきたが、それはすべて「虫の目」によるものだった。今年は趣向を変え、2008年度から社会貢献活動支援室(p.36参照)のテクニカルアドバイザーとして学生に接してきた立場から、「鳥の目」で実習生の学びについて書いてみたい。

2. 「かけがえのない実習体験」

人生の面白さは〈旅〉にある。〈旅〉に相当するのが、大学教育で言えば、実習などの体験学習ではないだろうか？迷つたり、意外なことに出会つたり、自分の知らない面を見せつけられたり……。人生の先輩との意外な出会いがあつたり、また反対に、自分を写す鏡のようにウロチヨロする子どもに出会つたり……、と。

そうこうしているうちに、自分というパーソナ



全ての工学は人々の幸せのために

リティの奥行きが自ずと深まっていき、自己肯定感が高まる、つまり自信がつくと、言つて良いのではないだろうか。

特に本学の学生のように、中学や高校時代、学校教育の中で教員から認められたり自信を持つたりすることが出来にくかった若者にとっては、「社会貢献活動」で得られる体験は、もう一つのオルタナティブな価値軸で自分や社会について知る格好の機会のようだ。

卒業の挨拶に来る実習生と話をしていると、「社会貢献活動」は、アルバイトともサークル活動とも違つて、純粹に掛け値なしの人間と出会う可能性に満ち満ちているところに価値があると言える、と筆者は密かに感じてきた。

例えば、「茅ヶ崎里山保全」の実習を行つた実習生のAは言つた。「僕があきらめなかつたのは、東先生が見ていてくれたことと、実習先の人が我慢強く、僕の、竹炭による土壤改良と大根の生育の関係についての収量調査の結果を待ついてくれたことです。」「これまでの自分だつたら投げ出していたかもしれません、実習先の人を裏切ることになると思うと、野外実験を途中で放り投げることができなかつたのです。」「茅ヶ崎里山の実習をやりとげて本当に良かったと思つています。就職活動も辛かつたんですけど、里山での実験が上手くいかなかつた時の気持ちをバネに、あきらめずに、良い結果となりました。本当にありがとうございました。」といつた具合である。

また、1年生の時から実習に参加したBは、表面的にはチャラチャラしていた学生だったが、同学年の真面目派Cの助けもあって、「社会貢献活動2」に進み、実習内容の企画立案を自分達で行い、実習先に提案をし、一日工作教室を主催した。具体的には、辻堂青少年会館に来る子ども達を対象に、「辻堂のヤング☆スクエア」の企画で、バスボム(発泡入浴剤)作りを実施した。

子どもにとつてどんな活動が魅力的なのか、素案の段階では30種類もの企画をリストアップしたという。その中で、子ども達が喜びそうな企画、準備がある程度大変でない企画、材料費が数千円で済む企画を絞り込んでいったそうだ。

一旦バスボム作りと決めてからも、実際に、バスボムとして入浴剤が固まるのかどうか、入れすぎると型崩れする重曹とクエン酸をどのくらい入れたら良いのか？ 型抜きの形を星型は難しいのでドーム型(半球型)にした、などの試行錯誤を行い、前実験もしたのである。いいかげんに楽をして単位を取りたいと実習を始めた1年生の頃とは、比べものにならない程の成長ぶりである。

彼らを変えたのは、ズバリ、子ども達である。Bは実習の「報告書」の「自ら設定した目標はどれくらい達成できたか？」の問いに、「子ども達との円滑なコミュニケーションを図ることと、それを支える先生方や親御さんから信頼される指導員を目指しました。」と書き、さらに自由記述欄には、「僕達が学んでいることを教えられることができすごいで、それを教える機会があり、聞いている子ども達がいる。僕は辻堂青少年会館に感謝します。ありがとうございます」と書きました。教育のつらさ・楽しさ・多くの体験がかけがえのない思い出です。」と、教える立場になつてこそ理解することができた教育の意義、教育の楽しさだけでなく、つらさをも発見し、かけがえのない体験だと結んでいます。

人は、かけがえのなさに出会うとき強くなれるのだ。上手く行かないことを受け止めたり、どうしてこんなことをやらなくてはならないのかという

的には、辻堂青少年会館に来る子ども達を対象に、

思いに詰まされた時、それに意義を見出したりと。そんな好例が、BとCの実習だつたのではないだろうか。Cは、「無償で、何かまたは誰かに奉仕する喜び。笑顔や『ありがとう』と言う言葉が、何よりも大切だと学びました。」と実習の最後に書く報告書でふりかえっている。

3.なぜ研修を

ワークショップで行うのか？

さて、前書きが長くなつたが、実習のふりかえりである。体験は「ふりかえら」ないと、ただ流れいくものだ。体験した感動や疑問をそのままにしておくのはもつたいない。「社会貢献活動1」では、50

時間の実習の中間期（15時間以上40時間未満の時期）に、中間期研修を行っている。実習の前半を「ふりかえり」、実習の後半の目標を得るための研修である。しかし、権威ある専門家の話を聞く研修ではなく、実習生同士が学び合うように、あえて、ワークショッピング形式で研修を行っている。参加者は実習生、彼らが「主役」である。ワークショッピングのファシリテーター（進行役）は支援室の筆者という、普段実習のコーディネーションで学生に接している者が務め、場のしつらえとして仰々しさをなくし、日常感を出す努力をしている。また、本学は、作文やコミュニケーションに苦手意識をもつ学生の多い工学部生ばかりなので、ワークショッピングでは、学生が気持ちのハードルを下げて参加し、対話ができるような仕掛けをいくつか作ってある。

A) 言葉の発言より身体で意思表示する

（具体的には、「一步前へ」というアイスブレイクから始める）

B) 自分の体験をかけがえのないものとして伝え合う体験をもつ（具体的には、2人ペアになつて、質問シートをもとに実習体験を共有する「相互インタビュー」という時間をつくる。向き合う者同士は、グループサイズの最小人数である2人なので、圧迫感は減り、反対に、良い意味での義務感が生じる。）

C) 自分の体験を、親身になつて誰かに理解してもらうことで、自分の実習を外側から客観的に眺めることができます。（インタビューをした相手の体験を、まるで自分の体験かのように一人称で語る「自己紹介」を導入し、相手に成りきつて、他ならぬ一番近くなつた実習生の実習体験を紹介することで、他人の実習について疑似体験をすることができる。）

D) インタビューの内容についての発表は少人数

で共有する。（最後に、相互インタビューで得た内容を元に、一重の輪になつて「自己紹介」をするが、16人は多いので、その場合は2つの輪に分け、1つの輪を8人程度とする。8人であれば、全員の自己紹介を聞くのに集中力が保てる時間（約20分～25分程度）となる。）

E) 体験し自らが実感したことなどを、言語化する。

ワークショッピングでは、自己紹介の後、最後のアクティビティとして「一言ふりかえり」を行っているが、その体験がリアルなうちに、ふりかえりを言葉にしてもらう。つまり、「ふりかえりシート」には、ワークショッピングの後に書く決まりになつてある中間期レポートと同じ問い合わせを載せ、それについて、ワークショッピングの最後のその場で書いてもらうようになっているのだ。そうすると、作文が苦手な故に理系に進学したという本学の多くの学生にとって、ワークショッピングの言語化がスマートに行くようだ。

実際、ワークショッピングをしないで、実習のレポートを書かせようとしたら、きっと一行か二行しか書けない本学の学生でも、ワークショッピングの後であれば、七行でも八行でも自分の言葉で本当に集中して書く姿が見られたのである。

(c) 最初は緊張しましたが、話してみると話しやすく、かなりリラックスして話すことができたと思います。今回のワークショッピングでうやむやだった目標をはつきりととらえることができたので、参加してよかったです。（放課後キッズクラブ「人間環境学科3年」）

(d) すごく興味深くて楽しく有意義な時間だった。今まで気になつていた他の実習先の活動内容を実際に活動している人達から詳細にかつわかりやすく聞くことができたので、とても強い満足感が得られた。様々な情報を知れて、自分達の活動と比較することができたので、心身ともにリラックスすることができた。（高齢者パソコン講座サポート」コンピュータ応用学科2年）

自分からできる仕事をもつと探して実習先の方々の役に立てるようになりたいと思います。その上でレポートなどをまとめて単位がとれるようになります。だた、単位をとるだけという意識ではなく、貢献できて初めてもらえる単位だと他の人の話を聞いて思いました。（茅ヶ崎里山保全情報工学科2年）

(b) 今日のワークショッピングをしてみて思ったのは、自分のやつている実習だけじゃなく、いろいろな実習先で、決断力や注意力が必要になつていていることを感じた。自分自身の目標も決断力と注意力だったので、実習の後半のテーマにしていきたいと思います。自分が決めた目標だけではなく、インタビューで聞いた違う目標も持てたらいいと思いました。

(a) もつと積極的に人と関わっていこうと思った。

(e) 今日はまさかこんなことをやると思っていなかった。みんなの話ややつてることを聴けて

さて、おエライ先生の言葉を得るのではなく、自分達の実習体験を相互インタビューで交換しあった参加者は、どのような感想をもつたのか、「ふりかえりシート」から特徴的な感想を再録しておきたい。

(a) もつと積極的に人と関わっていこうと思つた。

4. ワークショッピングでの気づき
——2013年11月28日の中間期研修
ワークショッピングを事例として

(b) 今日はまさかこんなことをやると思っていなかった。みんなの話ややつてることを聴けて



全ての工学は人々の幸せのために

なかなか勉強になりました。自分以外の実習先でどんなことをやつていて、どれだけ忙しく参考になつたので、よかったです。(茅ヶ崎里山保全「機械工学科2年」)

(f) 色々人の体験が聞けてよかったです。他の「社会貢献活動」でやつていることも大変なことをやつているが、その中でもすごく楽しいことがあるということがわかつたので、ぜひ、後半もがんばつてもらいたいです。自分もがんばつていきます。(高齢者パソコン講座サポート「コンピュータ応用学科2年」)

さて、これらの感想を聞いて、皆さんはどう印象をもつのであろうか?

ワークショップによる魔法で、ワークショップが終わつた直後に高揚体験が湧きあがつてくるのは良くあることだか、それを差し引いても、参加者の言葉には、自分の実習を何より「自分事」として引き受けている実感が出ていると考えられる。

つまり、実習はやらされているわけでもなく、自らが選び取つた活動なのであり、その貴重さが一人ひとりの実習体験を彼らが自分自身の血肉にしているのだと、推察できよう。

5. 実習生の学び ——サービスラーニングで自己を知る——

「社会貢献活動」の学びを、一口で語ることは難しい。実習テーマの多様性があり、さらにその実習を行つて実習生の幅のある個性が掛け合わされて、どのような教育効果があるのかを分析するのは非常に困難なためである。しかし、わかつてること

なかなか勉強になりました。自分以外の実習先でどんなことをやつていて、どれだけ忙しく参考になつたので、よかったです。(茅ヶ崎里山保全「機械工学科2年」)

(f) 色々人の体験が聞けてよかったです。他の「社会貢献活動」でやつていることも大変なことをやつているが、その中でもすごく楽しいことがあるということがわかつたので、ぜひ、後半もがんばつてもらいたいです。自分もがんばつていきます。(高齢者パソコン講座サポート「コンピュータ応用学科2年」)

さて、これらの感想を聞いて、皆さんはどう印象をもつのであろうか?

ワークショップによる魔法で、ワークショップが終わつた直後に高揚体験が湧きあがつてくるのは良くあることだか、それを差し引いても、参加者の言葉には、自分の実習を何より「自分事」として引き受けている実感が出ていると考えられる。

つまり、実習はやらされているわけでもなく、自らが選び取つた活動なのであり、その貴重さが一人ひとりの実習体験を彼らが自分自身の血肉にしているのだと、推察できよう。

が一つある。それは、大学内の座学では学べないことを彼らは吸収し、自分の可能性を広げていることは確実だということだ。

これまでの筆者の経験によれば、「社会貢献活動」を履修する学生は、大きく3つに分けられる。一つ目は、「大学生になつたのだから社会貢献活動をしたい!」という「意欲派」だ。高校生の時に、オープンキャンパスで「社会貢献活動」という科目があることを知り、それ故にこの大学を選んで入学したという学生が少數ながら確かに居る。また、教職課程を取り将来教員になりたいという学生にとっては、教育・子ども系の実習での経験は、教員になる布石として、確かな手ごたえがあるようだ。

昨年度卒業した機械工学科のDは、「大学の中だけでは学べないことが山ほどある。」と言つて、「社会貢献活動1, 2」を履修し、教員として社会に出て行く上で必要なことを体験したという。教員としてだけでなく、一人の人間として生きて行くために学べる場があるとともに、表現していた。そして実際に、Dは、公立中学校の技術科の教員になつた。

また、情報工学科の学生で、将来はコンピュータ関連のクリエイターになつて子どもを対象としたゲームのコンテンツを作りたいが、そもそも自分は子どもの気持ちや興味関心を知らないので、それを知るために実習テーマ「ビスケットワークショップ」を選択したというEが居て、彼は、子どもの目線で思考する重要性を学んだという。

二つ目は、工学以外の可能性を模索し、「社会貢献活動」の実習に可能性を見出そうとする「模索派」である。例えば、大学進学の時に保育士になろうかどうか迷つたのだが、本学に進学してしまい、自分の適性が子ども相手の仕事に向いているのかどうかを知りたいので、実習テーマ「辻堂のヤング

☆スクエア」で、子どもとの体験活動に従事したという学生Fがいる。彼は「これまでの自分は、漠然と子どもに関する職に就きたいと思っていましたが、今回の活動でそれだけでは仕事にならないと感じました。」と報告し、現実を目の当たりにして、自分の職業の選択の参考にしたようだ。

また、就職氷河期の今、これからは福祉の仕事が増えるだろうから、工学がわかつた上で福祉の分野でそれが生かせないかを考えないと、実習テーマ「福祉ものづくり」や、障がい者も対象にした「ユニバーサルスポーツ」を選択し、また、実習先に福祉施設を選ぶ学生が少なからず居る。

「社会貢献活動」は、共通教養科目でありインター・シップではないのだが、学生は自分なりに良く考えているな、と感心する。ある女子学生Gは、「実習は社会人の方々とお話でできるチャンスであり、仕事をするという堅苦しいインター・シップとはまた違つた意味で、『社会貢献活動』は、気軽に社会に接することのできる機会です。」と、捉えて実習に取り組んでいた。

三つ目は、「単位が足りないから」履修するといふ「駆け込み派」である。最初の目的はそうでも、実習を通して、学生は良い意味で「化ける」。先に述べた、BやCは、「駆け込み派」だったのだが、「社会貢献活動2」にまで実習を進め、見事に目的意識をもつた自主活動をするまでになつた。学生の潜在的 possibility は実に大きい、と思つた次第である。

このように、「社会貢献活動」の実習は、学生と社会とをつなぐ中間点に位置する学びを提供してくれれるサービスラーニングそのものだということが解かつていただけたと思う。

実習先の方々のご協力があつてこそ成り立つ科目であることに感謝しつつ、この稿を閉じたい。

このように、「社会貢献活動」の実習は、学生と社会とをつなぐ中間点に位置する学びを提供してくれるサービスラーニングそのものだということが解かつていただけたと思う。